

令和3年度第1回
平戸市総合戦略推進委員会
議 事 録

と き：令和3年10月6日（水）13：30～15：50
と ころ：平戸市役所 3階会議室ABC

開催日時	令和3年10月6日(水) 13:30~15:50
開催場所	平戸市役所 3階会議室ABC
出席委員 (50音順、敬称略)	井上翔一郎、岡田眞、白石くみ子、田上和利、田口増巳、辻秀敏、 長崎屋容子、林田裕之、福田章、北條達夫、松尾俊行、松田隆也、 松山芳弘、村上則夫(14名)
欠席委員 (50音順、敬称略)	山中兵恵(1名)
事務局 (財務部企画財政課)	村田部長、田中課長、藤山参事兼班長、作江主任主事
事業担当課長	観光課：林課長、商工物産課：峯野課長、農林課：度嶋課長 水産課：(欠席)
次第	
1 開会	(事務局)
2 委嘱状交付	委員を代表して田口委員へ委嘱状交付 (新規：田口委員、北條委員、松尾委員)
3 委員紹介	事務局から委員紹介
4 副市長 あいさつ	松田副市長
5 推進委員会 会長あいさつ	村上会長
6 議題 (1) 平戸市総合戦略及び人口動態等について (2) 平戸市総合戦略に係る令和2年度事業の実施状況等について	(事務局説明) 【基本目標1 雇用の促進】 (事務局説明) ●質疑・意見等

委員	<p>商工物産課が対象になると思うが、令和3年度の予算が記載されているものの、コロナ禍において予算がもし執行できなかった場合どうするのか？また、資料12ページ事業の改善の中で、「創業後のアフターフォローについて取り組んでいく必要がある」と記載があるが、具体的な計画があれば教えてほしい。</p>
担当課	<p>年度当初は確かにコロナの影響でイベント開催が難しいところもあったが、商工会議所等の尽力もあり今年「つんの一でまつり」も開催予定である。商店街・事業者への給付金等もあり、そういったところで粛々と予算執行していく予定。「創業後のアフターフォロー」について従来は、補助金交付までで終わりということもあったが、今後は、その企業の状況について検証も必要であるため、訪問を含めた商工会議所等との連携を図っている。</p>
会長	<p>委員さんの立場上、日頃、事業者の話を耳にすることもあると思われるが、意見・要望などあればこの際お話しいただけないか。</p>
委員	<p>不満は無いが・・・創業支援をしても倒産しては意味が無いので、例えば創業した方々を集めて意見交換会の場を設けてはどうか。商工会議所等も全面的にサポートする。創業後の事業継続につながるのではないかと期待している。</p>
委員	<p>回りまわってつながることだと思うので、平戸の観光について。県内からの修学旅行が明るい兆しを見せているものの、苦しんでいる事業者は多い。コロナの終息後は地域間競争が激しくなるとわれ、エージェントに頼らない個人旅行者に、平戸に来てもらえる目的づくりが重要となる。3月に平戸観光協会がDMOに認定され、観光をキーワードにした地域づくりが重要になってくる。歴史・文化・自然・食を磨き上げていけば、各業界の状況も良くなっていくのではないかと期待している。</p>

委員	<p>K T X(株)の誘致が決定したと報道等でも耳にしており、今後雇用の拡大も期待されていると思う。工事の進捗など現状についてわかる範囲で構わないので情報を欲しい。</p>
担当課	<p>田平町古梶地区に2haの工業用地を造成し、愛知県に本社があるK T X(株)の誘致が決定した。土地の売買も完了し、全体面積の一部であるが工場建設中。現状確認している情報では、年内に完成し来年4月から操業開始予定。初年度は地元から5人ほど雇用し、5か年計画で50人雇用予定とのこと。また、年内にハローワークを通じて募集をかける予定。今年度から、田平町内で新たな工業用地の適地調査を行っており、最終的には6カ所ほど調査し検討予定。雇用の確保のためにも企業誘致には取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>長崎県建設産業労働組合は、ほとんどが中小企業の建設業者、大工さんが所属しているが、人を多く雇うというよりも自分でなにかもこなす場合が多く、対象も個人が多い。雇用したい思いもあるが、そもそも若者で職人のなり手がいない。仮に大工になったとしても大手メーカーに仕事を取られてしまい、雇われて行っても賃金が安いなど建設業に対する魅力が少ないような状況。組合員も60~70代が多く、今後の運営も不安。</p>
会長	<p>どの業界においても後継者不足は1番の問題のようである。お金で買えないものもたくさんあるが、お金が無いと生活ができない。働く以上は安定した生活を送りたいのは当然。仕事への魅力を上げていくことが若い人に向けては重要。</p>
委員	<p>平戸の子供たちが目指している方向として、高校を選ぶ段階から市外を選択する子も多いのが現状。平戸に留まろうと思っている子は、近隣の実業系の高校へ進学する子が多い。実業系の高校へ聞いたところ、生徒1人当たりの求人が3件ほどあるとのこと。先ほどの意見の</p>

	<p>ように一方で人材不足が深刻なものの、工業系に進学する子は一定数いる状況であり、平戸へ定着していない状況が伺える。聞くところによると、東京や大阪など賃金が高く、休日に遊ぶ環境がある地域へ流れているのも事実。教える立場として、より高みを目指してもらいたい思いがあるため、ジレンマも生じている。</p>
委員	<p>当社は創業以来地元にお世話になっており、新商品作りは日々取り組んでいることである。コロナ禍になってみて、B to B (企業対企業)の重要さが高まってきた。店舗販売は厳しくても、大手スーパー等では順調な売れ行きを見せたりもしている。</p>
会長	<p>資料 12 ページの事業実施による成果中「融資利用件数」が突出して伸びているが、理由等分かれば教えてほしい。</p>
担当課	<p>コロナ禍の影響により、融資の申し出が多かったようである。</p>
委員	<p>現在農協においても総合戦略のように年次計画を立てて事業を進めているが、人口・農家の減少はやはり一番の課題であり、その状況下でもいかに現在の収益を継続して確保していくかはいつも議題になる。人が減ると事業の縮小や集約を検討せざるを得ず、負のスパイラルへと陥ってしまうため、対策として、残った人に対する教養・伝統技術習得支援に力を注がなければならないのではないかと考えている。U・Iターンを含めた新規就農者へのセミナーや支援にも取り組んでおり、目に見える費用対効果は長い目で見ないとわからないが、人材育成は重要と考える。</p>
会長	<p>転入者が減っているが転出者も減っていることから、コロナ禍を否定的だけに捉えず、実際平戸に留まる人も増えているという事実から、若い人を中心に、人を育てていくことが雇用の促進にもつながっていくのではないかと思う。もちろんバックアップもしつつ、新たなものを創造していくことが雇用の促進につながるのではないか。</p>

<p>副会長</p>	<p>様々な立場でのご意見をいただき感謝する。先日の議会の中で、工業団地の造成に要した費用と売却額との差額（手出し分）に関するご意見をいただいた。本市としては自治体間競争もある中で、なんとか有利に企業誘致につなげようとして取り組んだ結果であったが、費用対効果についてご指摘いただいたところである。しかしこれからも先行投資として、適地調査をはじめとした企業誘致には積極的に取り組んでいきたいと思っている。人材育成という点で、農林水産業の新規就業者については、国・県の補助などを活用しつつ、できる限り手厚く対応していこうと思う。各団体からのご意見を賜りながら、行政としてできる限りの支援は行っていきたい。</p>
<p>(2) 平戸市総合戦略に係る令和2年度事業の実施状況等について</p>	<p>【基本目標2 産業の振興】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p>
<p>委員</p>	<p>平戸ブランドの商品開発に関わっているが、基本は販路拡大による生産意欲向上から雇用拡大へつながっていくものと思われる。資料31ページ事業の改善の「地域商社を設立し」という文言があるが、地域商社がどういったものでどんな役割を担うのか？資料29ページ、方策の概要として「これまで『ふるさと納税』で寄附いただいた…平戸製品のPRにつなげます。」とあるが、私の知る限り寄附額が減り、かつポイントの消費も少ない状況で、テコ入れが必要な状況だと思う。その状況で、ふるさと納税についてスチームシップ(株)に委託しているようだがその成果はいかがなものか。</p>
<p>担当課</p>	<p>現在、首都圏での認知度拡大などには行政職員が中心となって取り組んでいるが、東京有楽町交通会館に展開する、物販型の「平戸商館」及び飲食店「平戸からありがとう」2店舗の運業者が、平戸の業者とつながりながら経営を行い、地域商社として首都圏での展開を図っ</p>

	<p>てもらおう構想がある。地域商社と言っても、今では電力会社など様々なものがあるが、当市の場合はアンテナショップ運営や販路拡大、平戸産品のプロモーションを担ってもらおう予定。</p>
委員	<p>ということは、平戸に新たな会社を作るわけではなく、今まで担当課の職員が行っていた分野を、首都圏の会社に委託するというような意味でよろしいか？</p>
担当課	<p>そのイメージで問題無い。</p>
担当課	<p>資料 29 ページにふるさと納税について記載があるが、財源確保と併せて地場産品の振興にも努めている。事業の詳細については掲載していない。令和元年度の寄附額が6億8千万円弱、令和2年度が6億4千万円ほどということで、ご指摘のとおり寄附額が伸び悩んでいるところである。本年6月から民間委託を実施しており、大きな取り組みとしては10月にカタログの作成と、掲載サイト商品レビューの改善を図ってもらっている。寄付者へのカタログ送付をはじめ、10月から本格的に寄附の獲得へ向けて取り組んでいきたいと思う。</p>
委員	<p>カタログの出来によっては、寄附額が伸びる可能性もあるということで理解をしたいと思う。カタログを見たところ、城泊についても340万円の寄附で宿泊できるとトップページに掲載されていた。また、観光において宿泊は目玉であるが、城泊の宿泊者数について市民も関心があると思うので、現時点の状況を聞きたい。</p>
担当課	<p>本年4月1日から城泊はオープンしているが、現時点まで宿泊者はいない。問い合わせは28件ほどあっており、今後宿泊が確約されているのが来年1月に1件。また、10月と11月にそれぞれ1件問い合わせがまっているので、今後調整していく。</p>
会長	<p>平戸のシンボルとして、費用対効果と、宿泊による波及効果も含め利</p>

	<p>用者増加を皆さん期待していると思う。観光に対する女性委員の意見も伺いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>アンテナショップの情報について、Instagram など SNS でよく目にし、「平戸でこんなに美味しいものが食べられるなら平戸に行ってみたい」という意見も載っている。情報発信の仕方ひとつで、集客に影響を与えるのではないかと思う。平戸城から夜景を見るなど女性視点の取組や、城泊にも興味はあるので、記念日など特別な日を過ごしてもらうためのアプローチをしていくなど、観光にとらわれない呼びかけも考えてみてはどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>一度きりの観光ではなくリピーターを増やすためにも、人的環境としておもてなしに力を入れることも必要だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>平戸に来る観光客が求めているものは、何十年の間ほぼ「食」であり、食に関する情報発信は重要。SNS などを通じて交流人口や関係人口を増やすことが、目標の達成へもつながっていくのではないか。</p>
<p>会長</p>	<p>資料 16 ページ事業実施による成果「ホームページアクセス件数」が急激に伸びており、アスパラ関連のテレビ放映によるものだと思うのだが、それが実際就労者の増加につながっているのか？</p>
<p>担当課</p>	<p>昨年の 10 月に、全国放送テレビ「田舎で 1000 万プレーヤー」に取り上げられたため、市への問い合わせが 514 件と殺到した。この方たちを平戸市での就農へとつなげるため、419 人にアンケートを実施し、154 名から回答いただいた。その内、5 年以内に移住して就農したいと答えた人が 110 名いたため、WEB も活用し就農相談会を今年の 4 月に開催した。参加者は 32 名であったが、現実的に就農につながる可能性があるのは 10 名程度ではないかという担当者の判断。平戸に移住し就農する方は近年増えており、平戸式もうかる農業実現支援事業の成果によるものと考えている。</p>

会長	これは言わば成功例という見方で良いのかなと思う。
委員	一時話題になり、移住したいという方は多かったものの、いざ必要な農地・施設・資金を考慮していくと段々絞られていき、最終的には資金がネックとなるため、理想と現実のギャップが難しいところ。
委員	今年は、近年では珍しく卒業後即就農という生徒がいた。85名ほどの卒業生の内4割は進学で例年より多く、就職する生徒の内7割は県内就職。農業大学校へも3名進学し、畜産へ2名、園芸へ1名であり、県外へ進学しても、将来は地元へ帰ってくるという子もいる。
会長	資料26ページの事業実施による成果「インターンシップの受入」とあるが、観光振興に直結しているのか？
担当課	筑紫女学院大学から24名受け入れているが、県立大・国際大からも受け入れを行っている。観光マーケティングやアンケートなどにも協力いただいている。
委員	東京のアンテナショップでとても人気のメニューがあると説明は聞いているが、平戸の人は見たことも聞いたこともないものだと思う。ジビエを食べさせるお店はあるが、地元ではほとんど売れず、外部の方はSNSなどで見てよく知っている状況。少なくとも、アンテナショップで人気の商品くらいは、市内で試食会を開くなど地元にも知ってもらう必要がある。平戸をよく知っている地元の人なら、調理のバリエーションも広がるかもしれない。東京のことが東京だけで終わってしまい、地元の人がおもてなしに参加できていない感じがある。
委員	情報をリアルタイムでいただければ、東京のことでも情報共有を行い取材もしやすく、一体感が生まれると思う。九州は特に、域内観光客が5割いるとのことであり、関東ばかりでなく同時に九州内にもPR

委員	<p>することが、コロナ後注力すべきことかなと思う。</p> <p>資料 13 ページのK P I 「年間外国人宿泊客数」について、どのような国から来られているのか？また、個人客が多いのか、団体旅行が多いのか？アフターコロナを見据え、外国人観光客が増えてきた時に誘客対策や、キャッシュレスへの対応が市内全域的にできるものか。銀行もキャッシュレス決済には力を入れており、D Xが急速に進んでいくと思われるが、地元の中小企業などデジタル化への支援が求められてくるのかなと感じている。</p>
担当課	<p>台湾・中国など東南アジアからの団体観光客が多い。海外向けの誘客については、9月28日に日本航空と連携協定を結び、ファーストクラスでの平戸産品紹介など海外富裕層向けコンテンツ作りにも取り組んでいるところ。そのほか、県の観光連盟と協力し海外向けコンテンツ作りも行っている。キャッシュレス決済については、対応が進んでいないのが現状であり、観光協会と協力して取り組んでいきたい。</p>
副会長	<p>行政内部のデジタル化への対応であるが、来年4月の組織改編に向け、情報推進を管理部門とシステム導入部門に分け、関係職員を増強し専門部署を増設する。</p>
会長	<p>農林業・水産・観光振興については、いつ収まるかわからないアフターコロナに向けた取り組みが重要となってくる。魅力的なまちをどう作るか？後継者づくりやもうかる仕組みづくりがテーマになってくると思っている。キャッシュレス決済がどこでも使えるようになってきており、現代に合わせた対応も真剣に考えていく必要がある。平戸城がもたらす波及効果も視野に入れ、観光振興にも力を入れていかねばならない。</p>
7 開会	<p>(会議終了)</p>